

# ナカノさん 元気に百歳迎える



元気に満百歳を迎えたナカノさん

合地沢の佐々木ナカノさんが三月二十三日、満百歳の誕生日を迎えました。

この日は、小向正悟助役と紺野朋夫町社会福祉協議会会長が自宅を訪れ、お祝い金や記念品を贈り、家族や親戚らとともに長寿を祝いました。

ナカノさんは、明治三十六年の生まれ。若いころは、農業に精を出し、養蚕やタバコ栽培などを手掛けてきました。手先が器用で、編み物などが得意。また、花を手入れすることが大好きでした。

八人の子ども、十四人の孫に恵まれ、現在は、次男の虎雄さん夫妻と三人暮らし。耳は遠いものの、食事、入浴などはすべて自分でこなすほど元気。最近、庭先で日なたぼっこをすることが日課となっています。

大船渡市からお祝いに駆け付けた末っ子の大和田きよこさんは、「とても働き者の母でした。これからも元気で、私たちのことを、やさしく見守っててください」と、さるなる長寿を願っていました。



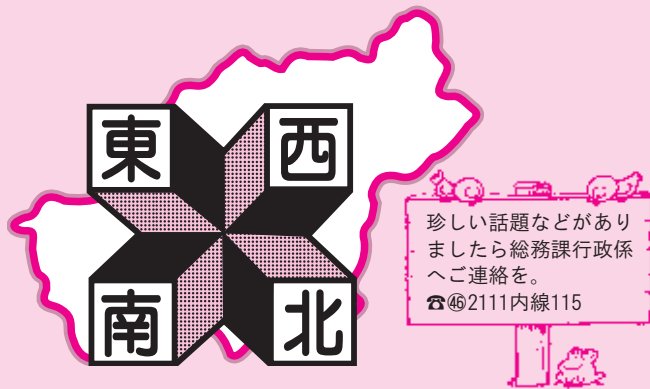
細谷さん(左手前)から説明を受ける参加者

町教育委員会主催の文化財史跡めぐりが三月二十四日に行われ、町民ら二十八人が参加しました。

これは、文化財、史跡などを見学しながら保護意識の高揚を図ろうと毎年実施されているもの。

この日参加者らは、一関博物館や毛越寺、柳之御所資料館などを見学。案内役となった細谷英男町文化財調査委員と陸前高田市在住のⅡの説明に耳を傾けながら、いにしへの文化に思いをはせました。

文化財史跡めぐり



## ダンスで運動不足を解消



松田さん(右)の指導で踊りを習得する参加者

下有住地区公民館(水沼孝哉館長)など主催の社交ダンス教室が三月四日から十二日までの四日間、下有住児童館で開かれ、町民十六人が参加しました。

これは、運動不足の解消と健康増進を目的に企画されたもの。参加者らは、ほとんどがダンス未経験でしたが、講師となった松田静さん(天嶽Ⅱの指導のもと、華麗な踊りを習得し、心地よい汗を流していました)。

夫婦で参加した千葉憲一さん、美恵子さん(松ヶ平Ⅱは、「興味はあったが、習う機会がなかった。実際に踊ってみて、とても楽しかった」と話していました)。

## 感謝の気持ちいっぱい

下有住小学校(大友たつ子校長、児童五十三人)の六年生による会食会が三月十五日、同校図書室で行われました。

これは、卒業を控えた児童らが、お世話になった地域住民や教師を招いて、感謝の気持ちを伝えようと企画されたもの。

テーブルには、児童らの手づくり料理が所狭しと並び、ゲームや思い出の曲を合唱するなどして楽しい時間を過ごしました。

最後に、児童を代表し多田慎太郎くん(奥新切Ⅱ)が「皆さんのおかげで色々な体験ができました。ありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。



思い出の曲を招待者に披露する児童たち



入所者らに「荒城の月」などを披露する児童たち

## 心地よい音色を入所者に

世田米小学校の大正琴クラブ(松田結花部長、部員十六人)とかつこうの会(佐藤マツエ会長、会員二十人)が三月二十四日、特別養護老人ホームすみた荘を訪れ、大正琴の演奏を行いました。

約六十人の入所者らが、見守る中、大正琴クラブは「タヤけこやけ」「荒城の月」などを、かつこうの会は「ソーラン節」「北国の春」をそれぞれ披露し、盛んな拍手を受けました。

演奏終了後、松田部長(六年)Ⅱ城内Ⅱは、「皆さんに喜んでもらえて良かったです」と、笑顔を見せていました。

## 世中が木工で再びの快挙



▶受賞の喜びを語る生徒たち

◀農林水産大臣賞を受賞した作品「竹」

第二十八回全国児童生徒木工工作コンクール(日本木材青壮年団体連合会主催)で、世田米中学校(泉田東洋男校長、生徒百二十四人)の生徒が製作した作品「竹」が、農林水産大臣賞を受賞しました。

同賞は、最高賞の文部科学大臣賞に次ぐもの。今回の受賞で同校からは、十九作品目の入賞となりました。

製作者は、神田麻未さんⅡ日向Ⅱ、菅野美沙子さんⅡ日向Ⅱ、菊池里美さんⅡ和山Ⅱ、菅野友里恵さんⅡ向村Ⅱ、原佐々木智美さんⅡ日向Ⅱ、原

襟香さんⅡ小口洞Ⅱ、水野章さんⅡ田谷Ⅱ、吉田知恵子さんⅡ和山Ⅱの三年生八人。

作品は、約二百五十枚の笹の葉を一枚ずつ丁寧に仕上げなど、竹林の空間をリアルに再現した秀作。おとしの夏ごろから製作が始まり、完成までに一年三カ月の月日を費やしました。

生徒らは、「先輩たちに続き受賞できたことは、とてもうれしい。自分たちの力で、これまでの作品を製作でき、自信になりました」と受賞の喜びを語っていました。